

理想の教師像について —保健体育科教員に着目して—

山本 朱絵 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 谷川 尚己

キーワード (保健体育科、教師像、コミュニケーション)

I. 緒言

佐藤¹⁾は、理想の教師像とは、「教職を目指す者にとっての目標であり、子どもやその保護者が望む教師の姿でもある。」と述べている。竹中²⁾らは、体育の教師は、「他教科に比べ、直接生徒と接触する場面が多いために親密であり、さらに教科内容が行動を通じての教育であるため、日常の生活態度および行動が、大いに影響を与える」としている。

そこで今回、生徒や教師にとって理想の教師像とは何なのかについて保健体育科に着目し、双方の考えを調査することにした。生徒と教師の考える理想像の共通点・相違点について検討し、その結果をもとに実際の教育現場で求められる力すなわち「理想の教師像」を見い出そうとするものである。

II. 研究方法

京都府山城地域内2中学の1~3年生(男子179名 女子165名 計344人)、および同地域内の5中学の保健体育教師(21人)に教師に必要な力を様々な観点から見た29項目のアンケート調査を行った。

III. 結果と考察

生徒は「分かりやすい授業をする先生」「運動の楽しさを味あわせることができる先生」について重要と考えている。生徒は体育授業に重点を置いている教師を理想としていることが分かる。

教師は「教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲をもった先生」「心身ともに健康である先生」

について重要と考えている。このことから、教師は授業を行う上での土台を重要と考えていることが分かる。

今回の調査では、「運動の楽しさを味あわせることができる先生」「子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生」が生徒・教師ともに共通して上位に上がり、コミュニケーションが上手にとれることを理想としていることが分かった。「コミュニケーション」については山根³⁾も同様の報告をしている。

一方、「地域と連携することができる先生」「職員と積極的に意見交換をする先生」「教職員と協力することができる先生」といった「協力・連携」については、生徒・教師共に重要と考えていないことが分かった。

IV. まとめ

体育の授業に着目したアンケートを中学生と保健体育教師に行い、保健体育科における理想の教師像とは、「分かりやすく、コミュニケーションを上手にとることができ、運動の楽しさを伝えることのできる先生」であることが分かった。

今後はさらに、小学校や高等学校などにも視野を広げてアンケート調査を行い、校種別に比較していきたいと考える。

参考文献

- 1) 佐藤晴雄(2007): 教職概論 学陽書房
- 2) 竹中玉一、松本寿吉(1958): 理想的体育教師について
- 3) 山根文男・古市裕一・木多功彦(2010): 理想の教師像についての調査研究